校内研究の概要

学校教育目標
○よく考える子　○元気な子　○助け合う子

児童の実態

・素直で、相手の考えを受け入れることができる児童が多い。
・誰かの役に立ちたいという思いがみられる。
・発言できる子と発言できない子の偏りがある。
・自信をもって自分の考えを話すことが苦手。
・些細なことで傷つきやすい児童が多い。

研究主題
自分の考えや気持ちを伝える力の育成
～体育科の学び合いを通して～

目指す児童像

○自分の気持ちを自分で伝えることができる児童（低学年）
○自分の考えを分かりやすく説明することができる児童（中学年）
○自分の考えや気持ちを積極的に伝えることができる児童（高学年）

研究仮説

① グループでの話し合い活動を意図的に行うことで、自分の考えを伝える技能や意欲が育まれるだろう。
② 考えを可視化することで、共通理解が図りやすくなり、児童の伝え合う力が伸びるだろう。
③ 振り返りで、自分自身や友達の成長や変化を理解できるようにすることで、自己理解が深まり、自分の状態を他者に伝える力が育まれるだろう。
④ 学習課題の設定を工夫することで、児童の「伝えたい」という意欲につながるだろう。

研究方法

学校全体での取り組み（手立て）	
◆学習カードの作成・活用。 ◆振り返りの工夫。 ◆ICT の活用。 ◆作戦ボードの活用。 ◆作戦の選択肢カードの作成・活用。	◆学習課題の設定 低学年　指導者が設定した課題の中から、「おもしろそう」「楽しそう」だと感じる課題を選ぶ。 中学年　目標を達成するために、自分が「やってみたい」「できるようになりたい」と考えて課題を決める。 高学年　目標達成のための手だてや学習の進め方などを考え、「こうやってみよう」と課題を決める。